

プログラム名	No.5	川で遊ぼう ～あんぜんに・たのしく・やさしく～	
実施団体	○団体名:カワラバン ○代表者名:菅原 正徳 ○電話:090-9745-3571 ○FAX:022-778-2683 ○所在地:仙台市青葉区中山 4-10-11 ○メー ル:contact@kawara-ban.org ※プログラム提案団体:特定非営利活動法人 水・環境ネット東北 (平成19 年度)		
対象者	幼児、小学生、中学生、高校生、成人		
対象人数	120人まで (フィールドの規模によって異なります。概ね80人を超える場合は2回に分けて行います。)		
学習場所	地域の川 (広瀬川・名取川・七北田川など)		
学習時間	90分程度		
学習時期	6月～10月上旬		
準備物品・費用等 (講師謝金を除く)	実施団体側	ライフジャケット、網、水槽	
	利用者側	救急セット、ライフジャケット使用料 (1人300円)、ブルーシート	
事前打ち合わせ	実施希望日の1～2か月前		
効果的な学習段階	幼児の自然に親しむ活動として。小学生の場合は、1-2生活、3-4年理科・社会、5-6年理科・社会、3-6年総合の関連項目学習時など。		
学習概要	1. 学習のねらい		
	(1) 川に入っの活動をする際に適した装備や行動、そして危険箇所等を学ぶ。 (2) 水生生物が生息するのに必要な条件や採取の方法を学ぶ。		
			
2. 学習する内容		3. 学習のポイント	
(1) ライフジャケットの着用 ○ライフジャケットの必要性和正しい着用方法を説明した後、各自着用します。 (2) 川での注意事項 ○列をつくり前の人の肩ベルトを掴んで活動エリアを一周します。 川を歩いて感じたことを発表してもらい、石が動きやすいことや滑ること、流れが強いことなど、活動時に注意することを共有します		(☆は小学校指導要領より、学習する内容がどの教科に関連するかを表しました。) ・ライフジャケットの着脱や川の中での活動時、保護者等のサポートが多いほど円滑にかつ安全にプログラムを進めることができます。 ・一列になって歩くことでバランスをくずしても転びにくくなります。 ・安全を確保した状態で、川の中がいかにかきにくいかを体験することができます。 ・活動前に注意事項を説明するのではなく、体験を通して気づきどう行動すべきか考えてもらいます。	
			

(3) 水生生物の捕まえ方

○網を使った魚や水生昆虫などの捕まえ方と採取した生き物を弱らせないための扱い方について説明します。

(4) 川に入り活動する

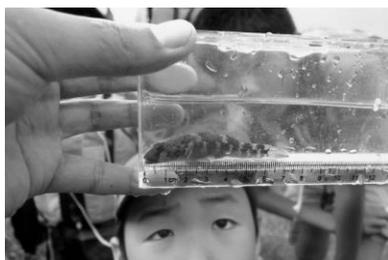
○指定した活動エリア内を自由に動き回り、網を使って魚や水生昆虫を採取するとともに、全身で川を実感してもらいます。



(5) 水生生物の観察

○採取した魚や水生昆虫について、どこでどのようにして捕まえたか発表してもらったのち名前を紹介します。

○採取した水生生物が川の状態の指標になることを伝え、事後の学習で調べてもらうようにします。



☆流れる水のはたらき（5年生理科）

- ・はじめに水生生物が生きていくうえで必要な要素を挙げてもらいます。水やエサも重要ですが、捕食者から身を隠すために草陰や石の下を利用しているのので、採取の際は隠れ家を見つける事が重要です。
- ・観察を終えた水生生物を元気な状態で川に戻せるよう、手を水で冷やしてから触ることなどを確認します。

☆生き物のくらしと環境（6年生理科）

- ☆いきものなかよし、生きものなかよし 大作せん（1・2年生生活）
- ・どこにどんな生き物がいたかを共有します。

☆こん虫を調べよう（3年生理科）

4. 学習のまとめ

- 川に入る際はライフジャケットを着用し、脱げにくい運動靴などを履く。
- 川には流れのはやいところや深いところ、滑りやすいなど気を付ける場所が多くある。
- 水生生物を捕まえるためには、隠れている場所を予想することが大事である。
- 川にすんでいる魚や水生昆虫から川の状態を知ることができる。

<p>追加・変更できる学習内容</p>	<p>○ライフジャケットの浮力で浮かんで川を流れる体験 ○箱メガネを使った水中観察 ○カヌー体験（人数が少ない場合）</p>
<p>事前・事後学習についての助言</p>	<p>○プログラム「川に学ぼう」とあわせて学習に取り入れるとより効果的です。 ○プログラム「大人のための川遊び講座」を引率の方々に受けていただくとより効果的です。</p>
<p>雨天時の学習内容</p>	<p>○プログラム「川に学ぼう」を実践している場合は雨天中止 ○プログラム「川に学ぼう」を実践していない場合は同プログラムを雨天プログラムとする</p>